（教科名）学習指導案（12 ポイント。以下、10.5 ポイント）

指導者　　〇〇〇〇
補助者　　□□□□
指導教員　　△△△△

1．対　象　　学部　組（またはグループ）　　〇名

2．日　時　　令和　年　月　日（曜日）　校時（　時　分～　時　分）

3．場　所　　※移動を含む場合は、開始場所と活動場所を記述。

4．題材（単元）名　「　　」

5．題材（単元）について　（簡潔に／箇条書きでもよい／略案は省略可）

①児童・生徒観

※本題材（単元）にかかわる児童生徒の実態や興味関心について記述する。
※「～な実態なので、〇〇が課題だと考える」というように書く。この題材でこんなことをねらいたい、こんな力をつけさせたい、ということを明確にする。
※個々の実態については「8．本時の学習②児童・生徒の実態と目標・手だて」で記述する。
※対象となる児童生徒のこれまでの学習経験に根ざした実態を記述。
※本題材（単元）の学習目標に関わる指導内容に関する興味関心、経験などを記述。

②題材（単元）観

※この題材（単元）の特徴を記述する。
※この題材（単元）に対する考え方や、なぜこの教材をあつかうか、について記述する。
※題材（単元）の意義やねらい、扱う教材に関する考え方について記述。
※指導のねらい（意図）、内容、教材の特徴、児童・生徒の様子に合わせて取り扱う場合の有効な点などを記述。

③指導観

※目標達成のためにどのように学習活動や指導の工夫をするのか、具体的に記述するのか。
※教材や教具の工夫点（学習活動、場設定、学習形態、展開計画、使用機器など）、指導者の協力体制などについて記述する。
※前述の児童生徒観をもとに、本題材（単元）をどの様に扱い指導するのか、その指導方針、内容、方法を記述。
めざす児童生徒の姿や、育てたい力、指導の工夫点（学習活動、場設定、学習形態、展開計画、使用機器など）を記述。

6．題材（単元）の学習目標

※担当教員から題材（単元）についての話に基づき、記述する。
※〔知識及び技能〕　（～できる。）
※〔思考力、判断力、表現力〕　（～できる。）
※〔学びに向かう力、人間性等〕　（～しようとする。）

７．題材（単元）の指導計画　（全〇時間）　※担当教員から時間数を聞き、展開を計画し、記述する。

第一次　「　　」〇時間

第二次　「　　」〇時間　※活動、ねらいなどで、どう活動に変化をつけるか。

第三次　「　　」〇時間　（本時〇時間目）

８．本時の学習

①本時の学習目標

※題材（単元）の学習目標、題材（単元）の指導計画と関連させ、学習活動を通し本時間内で獲得させたい内容を、学習者（子ども）を主語として、具体的で観察可能な行動レベルの目標を箇条書きで記述。

・〔知識及び技能〕　（～できる。）

・〔思考力、判断力、表現力〕　（～できる。）

・〔学びに向かう力、人間性等〕　（～しようとする。）

②児童・生徒の実態と目標・手だて

※全員について記述。

※本題材（単元）の学習目標にかかわる前時までの様子。

※前時までの様子を受けた本時の目標。

※その目標を達成するための、本時の手だて。

児童生徒名	児童生徒の様子	目標	手だて
A、B、C と記入します ※尚、検閲指導教員に提出する指導案には、氏名を書いて参観しやすいようにします。	〇すき間やズレがあっても「できた。」としてしまうことがあるが、道具ややり方は分かっており、自分から活動を始め、区切りまで続けることができている。 ※否定的な表現を避けて、「ここまでできる」や「こういう支援があればできる」というように記述する。	〇仕上がりの状態の違いが分かる。 〇目標とする仕上がりになるために、どのようにすればよいかを意識しながら作業を進める。 ※左の様子を受けて、学習目標に即した本時の目標を記述する。	〇きれいにできた見本を、一緒に確認しながら、状態を分かりやすい言葉で示す。 〇求める結果を生み出すためにはどうすればよいかを生徒自身が考えられるように、指示しすぎず、様子を見守りながら、適宜ヒントを与えるようにする。 ※個々の実態をふまえて具体的に記述する。
B			

③本時について

※学習集団全体の前時までの様子と本時の学習目標を達成するための指導方法、学習形態、教材・教具、手だて等について具体的に記述。

④本時の展開

学習の流れ 段階	学習活動	手だて
活動の流れを記述する。 導入 展開 終結	・主語は学習者。（児童が、生徒が、） ・「何をするか」だけでなく、「どのように」するかなど、具体的に書く。	・主語は指導者が・・・・。 ・児童生徒が、本時実現したい学習活動を実現するために、どうするか（場の設定、どう提示するか、など）。 ・個別の手だてを必要に応じて記述。
活動① 【材を切る】 ・道具の準備	・手順表を見たり友だち同士で教え合ったりしながら、協力して材を切る。 ①グループで必要な道具を取りに行く。 ・道具表を見て、必要な道具を準備する。 ・材を運ぶ時に、まわりを確認する。	・順番が分かるように顔写真を用いた手順表を準備する。普段一緒に活動しているペアでの活動を設定する。 ・使う道具が分かるように、文字と絵を用いた道具表を準備する。 ・道具置き場を整頓し、箱などで分けて置いておく。 ・ぶつからないよう見守りながら、言葉かけをする。

⑤学習の場の図（必要に応じて）

※目標を実現するために必要な場の設定（手だて）。人・物の配置や向き、動きなどを記述。

⑥準備物

※教材教具、個数等を記述。長さや重さなどが手だてとしてある時は、それらも記述する。

⑦本時の評価

※本時の目標が達成されたかどうか。（どういう姿が見られたら目標達成とするのか。）

※具体的な事柄、場面でどの様な方法で評価するのかを明確にする。

９．まとめ

※授業後研究会で受けた指導をもとに、実施した授業を振り返る。